

平成19年度 県立並木高等学校自己評価表

目指す学校像	1. 未来を切り拓く人材を育成する学校 2. 生徒一人ひとりを大切に教育を推進する学校 3. 地域に信頼され、夢を提供する学校 4. 新しい中等教育学校づくりを目指す学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
「規律ある進学校」として知徳体バランスのとれた生徒の育成を進め、ある程度の成果を上げた。しかし、生徒の資質が多様化しつつある現在、生徒理解を一層深め個々の生徒に対応できる「魅力ある進学校」として、更なるきめ細かでの新たな取り組みが必要とされている。	学力の向上	①学習意欲を高め、学習方法を確立させ、家庭学習の習慣化を図る。 ②授業の公開や研究に取り組み、指導の工夫改善を図り、指導力を高める。 ③センター試験校内平均を全国平均以上にする。	
	進路希望の実現	④個人面談を重視し、個々の生徒に応じた進路指導を行う。 ⑤進学ガイダンスを充実させ、多様な情報の提供に努める。 ⑥職業観・勤労観を育成し、社会に役立つ生き方を考えさせる。	
	すこやかな心と体を育む	⑦生活指導を通して基本的な生活習慣を確立させる。 ⑧HR活動や部活動を通して、仲間を思いやり、自己を律する心を養う。 ⑨生徒会活動への一般生徒の参加意欲を高める。 ⑩安全教育を推進し、自己防衛意識と自己管理能力を高める。	
	中等教育学校開設準備	⑪情報収集及び研究に努める。 ⑫全職員の共通理解と校内体制の整備に努める。 ⑬保護者・地域への情報提供に努める。	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 次年度(学期)への主な課題
1 教務部	シラバスの効果的な運用を図り、自主的な学習態度を育成する。	年間授業の内容と目標を更に具体的でわかり易く示し、生徒に周知徹底させる。 年度初めや定期テストの前後にシラバスの利用を促す指導をする。 シラバスを参考にした学習計画の立案を促す。	
	授業時間の確保に努める。	各教科間や、学年内の連携を強化し、授業交換を徹底させ、補填授業を充実させる。 各種行事・考査日程の工夫と計画的な取り組みを進める。	
	校内の体制を見直し、各部・各教科・各学年の連携強化に努める。	学校評価システムを確立させる。 公開授業の実施と職員間の研修を更に進める。 多様化した生徒に対応した授業の工夫改善を図る。	
	基本的な生活習慣を育成し、他人との協調性を養い自己実現を目指す。	全職員の共通指導 挨拶・服装・時間を守る、を3本の柱とした生活指導 マナーアップ活動を通して、校則を遵守する態度の育成	
2 生徒指導部	保護者・関係諸機関との連携を密にし、問題行動の未然防止を目指す。	保護者との連携・協力 中学校・警察等の関係諸機関との連携・協力	
	安全教育の推進を図り、自己防衛意識・自己管理の育成を目指す。	生徒事故の未然防止 登下校時の立哨指導・巡回指導の実施 交通安全教育の徹底 自転車点検の実施	
	部活動の活発化	新入生の運動部加入率を引き上げるとともに、文化部への加入を推進する。 部活動における効率的な練習を推進し、県大会に出場する部を増やす。 部顧問間の連携を強化し、学校全体としての指導体制をより充実させる。	
	主体性のある生徒会活動の推進	生徒会役員が今以上に主体性を持って、生徒会活動が進められるようにする。 常置委員会の仕事を再点検し、必要に応じて委員会を新設する。 生徒会役員選挙に多くの候補者が立候補するよう、生徒の意識を高揚させる。	
3 特別活動部	学校行事の活性化	かえて祭の実行委員を増やし、生徒による企画・運営を推進させる。 スポーツデイにおけるクラスの団結力を高め、協調的精神を養う。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
4 進路指導部	適切な進路情報を提供し 進路意識の高揚を図る	進路室の整備と利用促進 進学要覧の活用（HRでの使用と保護者への進路情報の提供） 保護者面談時等を利用し、定期的な進路情報の提供		
	進路計画の作成	LHRを活用した進路指導（各学年での到達目標を設定する） 進路・生活実態調査を定期的に行い、生徒のその時点での状況を提供する 進路希望状況を適宜把握し、円滑に学年指導が進むよう情報を提供する		
	自己実現のための支援	早期に目標を見つけることが出来るように、進路ガイダンス等の充実を図る 模試の情報収集と結果の活用 学年との協力体制の確立		
5 保健部	生徒の健康・安全・健康 教育の推進に努める	健康診断は校医と相談し、合理的且つ円滑に行う 健康診断の結果、要治療者については早期治療を徹底する 日常的な保健室利用生徒について、担任・保護者との緊密な連携をはかる 校内の各組織と相談・連携し、喫煙・性・薬物等の講話を年1回は実施する 担任・教育相談室と連携を深め、心のケアを重視する 委員会活動の活性化を図る		
	校舎内の美化と安全に努 める	清掃時間には可能な限り先生方に監督についてもらう 危険箇所の点検を行ない、改善に努力する 避難訓練を実施する		
6 図書部	1 図書委員会の活発化	ローテーションによるカウンター業務（バーコードによる貸出と返却） 購入図書の選定と広報活動（「図書館報」の発行） 定例役員会の開催		
	2 図書館運営と図書の管 理	筑波大学より講師を招いて図書館情報に関する講習会の開催 購入図書の登録（バーコード入力） 定期点検による図書の整理整頓 図書館設備の充実		
7 渉外部	P T A 活動の共通理解	P T A 活動表・支部区分表の配付 学年・評議員の活動内容表の配付 つくばブロックの活動内容の検討		

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
8 教育情報部	授業におけるIT活用	校内研修会の実施 環境の整備(普通教室、視聴覚教室) e-Learning(ネットワークを利用した自学自習環境)の活用 教科「情報」と他教科の連携		
	IT環境を活用した校務の効率化	IT活用のための機器の導入と利用普及 校内サーバーの活用 教育情報ネットワークの活用促進 成績管理システムの改善		
	IT及び視聴覚環境の整備	ハードウェアの整備 校内ネットワーク(LAN)の整備 ソフトウェアの整備 視聴覚室の整備(視聴覚機器など)		
	IT環境の安全な運用	ネットワークの安定的な運用 セキュリティの向上 個人情報保護 情報倫理の確立		
	ITを活用した広報活動の充実 中等教育学校への対応	インターネットでの学校紹介の充実 メールマガジンを活用した保護者への広報活動 中等教育学校のIT環境の準備		
9 教育相談室	苦戦している生徒の早期発見・早期対応	欠席調べをして休みがちな生徒の抽出 チーム支援の充実 研修会、不登校マニュアルや相談室便りで相談的対応について理解してもらう		
	学年との連携強化	相談室の中に学年担当を決め、学年会の生徒動向の情報を打ち合わせで共有する 生徒へのアプローチについて教育相談的視点からのアドバイス 保護者との連携、医療機関の紹介		
	SCの一層の活用	SCと面接する生徒に対して学校生活の中で支援する SCを生徒の症状の見立てに参加してもらう		
10 中等教育学校準備室	各種プロジェクト計画を推進し、中等教育学校のシステムを構築する。	目指す学校像、教育理念を具現化できる特色ある教育課程を編成する。 教科ごとの指導内容・指導計画・評価規準が入ったシラバスを作成する。 特色ある学校行事・委員会活動・課外活動等について研究する。 並木高校生と共存できる中等教育学校の日課表を作成する。 成績評価方法について研究し、新しい成績処理システムを構築する。		
	校内外諸機関との連絡・連携を図り、開校準備計画を推進する。	関係校務分掌との連携及び職員間の情報の共有化に努め、開校準備に向けた校内体制の充実を図る。 PTA(保護者)・同窓会の理解・協力を得て、新たな組織作りの構築に努める。 関係教育諸機関、高校教育改革推進室担当者との連絡を密にし、連携を図る。		
	小学校や地域への広報活動に努める。	ホームページの内容を更新し、開校準備状況の広報活動に努める。 広報用のパンフレットを作成する。 小学校への広報活動に努めるとともに、小学校5・6年生とその保護者に向けた学校説明会を実施する。		
	入学者選抜に向けた準備を進め、実施にあたっての体制づくりをする。	県教育庁との連絡・連携を密にし、入学者選抜の実施に向けた準備を進める。 募集、適性検査等の実施、採点、判定会議、合格者発表等の一連の事務を、正確かつ円滑に処理できるよう校内の体制づくりに努める。		

評価基準 達成状況 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
11 事務部	効率的な県費の執行に努める	将来を見通した教育環境の整備 安全性を考慮した校舎内外の整備		
	授業料等の口座振替不能者減少に努める	生徒を通して、引落金額の通知を配布して、保護者の周知を求める		
	明解な団体費の執行	収入・支出の内容を明確にする 領収関係書類を確実に添付する		
	窓口業務・電話の応対等の接遇態度に心がける	窓口業務をする中で、常に不審者対策にも心掛ける		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
12 第1学年	高校生として規律ある基本的生活習慣の育成(生活指導) ⇒ ルールを遵守し自制・自律のできる生徒を育てる	校内や登下校時における挨拶の奨励		
		学年の先生全員からの声かけによる服装指導の徹底		
		朝の立哨指導により挨拶・服装指導を徹底させる		
		遅刻カードの導入と家庭との連携を図った事後指導の徹底		
	家庭学習の習慣化と基礎学力の育成(学習指導) ⇒ 授業を大切に、毎日の家庭学習を継続していける持続力と、高校生として基盤となる学力を身につけさせる	5分前行動を奨励しチャイム前授業準備の徹底を図る		
		週間家庭学習記録表の提出による家庭学習の習慣化		
		国数英週末課題の計画による家庭学習の習慣化		
		定期テスト前セルフスタディーTIME実施による自学自習力の育成		
		土曜学集会の活用による授業時間の確保		
		課外や到達度テスト実施による学力の向上を目指す		
自己理解と進路意識の高揚(進路指導) ⇒ 自分自身を客観的に見つめ、自己の適性を見極めるとともに、大学や職業に対する興味・関心を持たせる	小論文の有効な指導計画を実施する			
	自分史や適性検査の実施による自己理解の促進			
	進路講演会等による進路意識の覚醒			
	大学訪問・校外学習等による進路意識の高揚			
(その他) 充実した高校生活を送らせる	マイフューチャー実施による社会観・職業観の育成			
	文理選択について面談等を活用して生徒に慎重に考えさせる			
	部活動への参加の推進			
		生徒会活動への参加の推進		
		学校行事への積極的参加を促進		

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
13 第2学年	基礎学力の向上	1時間1時間の授業を大切にすること(分かる授業の展開・チャイム始業の徹底・家庭学習の徹底を図る)			
		習熟度に応じた学習指導体制の確立			
		宿題、週末課題、長期休業中の課題等の提出を徹底させる			
		到達度テストの実施			
		土曜学習会や夏期課外等の課外授業の実施			
基本的な生活習慣を確立し、高校生らしい礼儀を身につける	遅刻指導の徹底				
	朝の立哨指導の実施				
	頭髪・服装指導の徹底				
	挨拶の奨励				
	面談の重視				
生徒自らが自分の在り方・生き方を考えながら進路選択できる進路指導の実現	進路理解のための進路講演会の実施				
	体験的進路指導の充実(大学模擬講座、大学訪問・オープンキャンパス参加)				
	ロングホームルーム等を利用した入試システムの研究				
中堅学年として、部活動や生徒会行事・学校行事等への積極的な参加	部活動・生徒会活動への参加の推進				
	リーダーの育成				
	学校行事の本部役員参加率の向上				
家庭との密なる連携・協力体制の確立	学年行事の企画・運営に生徒を積極的に参加させる				
	家庭との連絡を密にして、生徒の動向に気を配る				
	学校になかなか登校できない生徒に対して、家庭と十分に連絡を取り、教育相談室等と協力しながら指導していく				
14 第3学年	希望の進路実現を果たすために、生徒一人一人の基礎学力の確立および実力の養成をめざす。	数値目標…センター試験(校外模試)校内平均を全科目全国平均以上とする。			
		1時間1時間の授業を大切にすること			
		家庭学習の徹底→平日5時間以上、休日10時間以上を実践			
	最高学年として、勉学との両立を図りながら、部活動や生徒会行事等への積極的な参加。	小論文指導の完成→外部講師を導入し定期的な指導を実現			
		活力ある学校生活の実現			
		リーダーの育成			
	基本的な生活習慣を確立し、社会人として必要な礼儀を身につける	愛校精神と帰属意識を育む			
		人間関係の規律と自己の存在意義を考える			
	生徒自らが自分の在り方・生き方を考えながら進路選択できる進路指導の実現	遅刻指導の徹底			
		頭髪・服装指導の徹底(指導対象者との面談重視)			
個々の進路に応じた綿密な面談の重視(年間5回以上)					
志望校決定のための校外進路説明会・オープンキャンパス参加					
家庭との密なる連携・協力体制の確立	「高校生から受験生(自ら学べる生徒)」に切り替えるための進路講演会・ガイダンス等実施				
	模擬試験を受けてのデータ分析会の充実				
	志望別、レベル別に分けての入試問題研究				
		学年メールマガジンの継続・発展させ、より積極的な利用を呼びかけ、保護者との意思疎通を図る。			

評価基準 達成状況 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
15 国語科	自発的な学習習慣の定着	学習ガイダンスを重視し、予習・復習の仕方・週末課題について細かに指導する シラバスにより単元目標を提示し、それに合わせた授業・評価の工夫をする 生徒が学習しやすいようにプリント等の工夫をする		
	読解指導の深化	小説・評論の読解法について解説し、実際に使えるようにする 古文の読解のポイントについて解説し、授業で実践する		
	記述入試対応	設問に応じた答え方ができるよう、板上添削など授業の工夫をする 記述対策を早期に開始し、生徒の苦手意識を解消する 過去問や河合塾サテライト講座など独自の小論文の指導法を確立する		
16 地歴公民科	シラバスの作成	年間目標を提示 学習方法を提示		
	IT活用	指導法についての研修会の実施 有効活用できるソフトの作成		
	評価方法の工夫	課外、小テストの実施 課題の評価方法の工夫		
17 数学科	年間指導計画の作成	単元目標の達成 生徒の学力に応じた独自のペース(進度)の確立 新課程に対する情報収集と対策		
	生徒の学習意欲を喚起する学習指導	副教材の充実 習熟度別学習指導の実施 小テスト(到達度テスト)の充実		
	生徒一人一人を大切にされた教科活動	課外の充実 質問を受け入れる体制作り(放課後・昼休みの活用) 課題学習の徹底(家庭学習の充実)		
18 理科	生徒が自ら学習するような指導	授業時間ごとの目標の設定 副教材のページや問題番号を指定した復習の工夫 シラバスを基本に学習計画づくりを進め、生徒が自ら学習できるような指導を行うよう努める		
	学力向上	分かる授業の工夫と展開 指導内容の研究と授業方法の工夫改善 家庭学習の習慣化		
	生徒の個性に応じた指導	成績不振者に対して基礎課外や個別指導の実施 小テストなどにより到達度の確認を図る 理解度の違いに対して個別指導を行う 学力向上のための課外の充実		

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
19 保健体育科	体力の保持増進	授業及び体力テスト等への積極的参加姿勢の育成 体づくり運動、特に筋力向上プログラムの効果的な実践 12分間走の充実		
	運動技能知識の理解及び修得	技能知識の理解 運動技能の修得 ルールの理解		
	スポーツマンシップの育成	規律ある行動 あいさつの励行 マナー、ルールの遵守		
	保健学習の充実	現代社会と健康の理解 生涯を通じる健康の理解 社会生活と健康の理解		
20 芸術科	芸術的表現技術の向上	自己の考えを練り、思考する過程を重視する 様々な表現手段を示し、各自の表現に合った技術を習得させる		
	鑑賞教育の充実をはかる	様々な分野の鑑賞資料を提示する インターネット等を活用し、主体的に鑑賞にかかわるよう指導する 文化の理解から、国際理解人間理解へと発展させる		
	心の教育を目指す	表現を通じて、自己の内面との対峙を目指す 美しいものへの感動を通して自己を高める		
21 英語科	基礎学力の定着	教科書を中心とした基礎基本の徹底を図る。 小テストを実施して、その結果理解不十分な生徒へは補習を行う。 生徒のレベル毎に応じた課題を提示する。		
	教育機器を活用した楽しい授業の工夫	LL教室を大いに活用し、生徒の興味を喚起させる授業の工夫に努める。 ITを活用した、自主的な英語学習の奨励。 英語検定試験やセンター試験でのリスニング力の向上を図る。		
	教員間の意見交換を積極的に行う場の確保	授業公開などを利用して、お互いの授業の改善を図る。 外部の研修会へ積極的に参加し、校内での報告会を行う。 授業担当者間において、綿密な打ち合わせができるように意見交換の場を確保する。		
22 家庭科	年間指導計画の作成	授業時間ごとの目標の設定 学習ノートなどを利用した復習の工夫 シラバスを基本に学習計画づくりを進め、生徒が自ら学習できるような指導を行うよう努める		
	生徒の学習意欲を喚起する学習指導	分かる授業の工夫と展開 指導内容の研究と授業方法の工夫改善 実験・実習の実践(調理実習・実験、被服製作、高齢者疑似体験、保育人形の活用等)		
	生徒一人一人を大切にしたい教科活動	生徒の自主性を伸長する展開(グループ研究、学校家庭クラブ活動の推進) 体験学習の実践(ホームプロジェクトの実践) 実態調査をし生徒の自己評価を確認する。		

評価基準 達成状況 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
23 情報科	IT活用及びコミュニケーション能力の育成	実習の中で基本的なソフトウェアを利用する			
		情報の検索、加工、発信という基本的なIT活用プロセスを扱う			
		グループワークや他とのコミュニケーションを重視した実習を行う			
	情報倫理の育成	基本的な用語や概念については、試験を実施することによって定着させる			
		知的財産権について、いろいろな場面で扱う			
		情報倫理について、自分で判断できるように指導する			
他教科との連携	人と人との関係性を重視した指導を行う				
	進路決定のプロセスにITを活用できるようにする				
	学校行事とリンクした実習を取り入れる				
他教科との連携をいろいろな場面で試みる					
評価科目	学年	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
24 総合的な学習の時間	1年 道徳	道徳的な心情・判断力・実践意欲と態度などの道徳性を養うとともに、道徳的価値及び人間としての生き方についての自覚を深める。	校長先生による講話等により道徳的価値観を身につけさせる		
			社会人による職業講話（マイフューチャーセミナー）を設定し、良き社会人を目指すさせる。		
			校外学習等を計画し、自己を見つめ将来に対する展望と価値観を育成する。		
	2年	生徒自らが考え情報を収集・分析し、計画を立てて行動に移せる力を育むと共に、自分の在り方・生き方を考え目標を見据えながら進路選択できる力を養う。	進路講演会等により、自分の学習状況や将来の計画について考えを深めさせる。		
			大学模擬講座等を通して、自分の進路選択について考えを深めさせる。		
			キャンパス見学会等に参加することにより、自ら情報を収集・分析し計画を立てて行動する力を育て、併せて将来の進路について考えを深めさせる。「情報A」等教科の授業と協力することにより、「総合的な学習の時間」で学んだことをさらに深めさせる。		
	3年	「強く生き抜く力」を育てる ①完成学年として、実社会に出て社会生活を営むにあたり、いかなる困難に突き当たろうとも、力強く生き抜く力・精神力を育てる。 ②自己の進路目標を明確にし、努力させ、実現させることにより、達成感・充実感を味わわせる。	校外進路説明会を実施。志望校を比較・検討することによって、進路意識の高揚を図るとともに、より現実的な志望校決定の機会とする。		
			進路講演会を計画。文化祭終了、部活動引退の時期（6月中旬）に、「高校生から受験生へ」の意識付けとしての講演会を行う。		
			小論文指導の実施。計画的に小論文の書き方を指導することにより、物事に対しての自分の考え整理し、論述することができるようにする。（外部講師による講演、添削指導）		
オープンキャンパス参加。実際に大学を見学することにより志望校を明確化しこれからの学習に意欲を持たせる。					

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない